



「楽しく泳ぐがモットーです」と野口さん

輝いています

マスターズ水泳 2023日本ランキングトップ10

ひと

のぐち もも え 野口 百恵 さん

水泳で喜びを分かち合う

年

年齢区分でタイムを競うマスターズ水泳。昨年の日本ランキングが発表され、野口百恵さん(49歳・塚越4丁目)が個人45〜49歳区分で1種目と4人合計240〜279歳区分のリレー2種目でトップ10入りを果たしました。学生時代は競泳で全国大会出場、その後はトライアスロンで日本選手権8位入賞と輝かしい成績を残してきた野口さん。26歳で引退後、運動はしていませんでしたが、子育てに余裕が出てきた7年前、運動不足解消と子どもにかっこいい姿を見せたいという思いから、16年ぶりに競泳を再開するためルネサンスに入会します。現役時代とのギャ

ップに苦しみながらも、ともに練習する60代や70代の仲間の楽しみつつ懸命に泳ぐ姿に励まされ、「私もこうなりたい」と、基礎練習に加えて筋力トレーニングも再開。今では週に約10キロを泳ぐほど泳力を取り戻しています。そんな野口さんの思い出のレースは昨年の県大会のリレー種目。最年少の野口さんはアンカーを任せられます。持ち前の大きな泳ぎでぐんぐん加速すると、後続を引き離し、大会記録を約3秒も更新して優勝。リレーメンバーからは「ありがとう」の言葉をかけられたという野口さんは、「感謝するのは私のほう。機会をもらえてうれしかったです」とはにかみます。この記録は日本ランキングで8位に入るほどの好記録で、仲間や家族とともに喜んでくれました。今後の目標は、7月の全国大会の個人・リレー両方でのメダル獲得。そのためにスピードを安定させる練習に取り組んでいます。「現役の頃はタイムを追い求めるのに必死でしたが、今は心から水泳が楽しいです」と話す野口さん。仲間や家族の笑顔に向かって、これからも泳ぎ続けます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品
蕨にあり

—No.96—



晩翠筆「紫式部・清少納言図」
絹本墨画彩色 軸装 双幅

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

本図は晩斎の娘・晩翠(1868〜1935)による作品です。右幅の紫式部が羽織る桂という上着は茶系の落ち着いた色、もう一方の清少納言の袴は鮮やかな緋色と、両者の人柄の違いを色調によって描き分けています。また、両図は菊池容斎が偉人の逸話と肖像をまとめた墨摺の版本『前賢故実』を基にしていますが、晩翠は紫式部の書棚を反対に移して構図を整え、平安女流文学の双璧が対面し、互いを引き立て合うよう、独自の工夫を凝らしています。

河鍋晩斎記念美術館 開催中

企画展「国際博物館の日記念 晩斎・晩翠 物語絵の世界」展
同時開催 特別展「晩斎没後135年
『晩斎画談』で振り返る晩斎の逸話」展

開 館 = 午前10時〜午後4時 ところ = 南町4-36-4

休 館 = 火・木曜日、26日〜末日

入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円

小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください

詳 細 = 同館(☎441・9780)



詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください



yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年(1831)
〜明治22年(1889)